

お口の健康を守ろう！

湘南獣医師会

塩谷 香織



現在、3歳以上の犬と猫の約80%が歯周病であると言われるほど、歯周病は深刻な問題になっています。犬と猫の口の中にはたくさんの細菌がい

歯垢・歯石の付着から歯周病になるまで

ますが、人と口腔内環境が異なる為(人は弱酸性、犬猫はアルカリ性)、むしろ歯にはなりにくと言われています。しかし、歯垢や歯石に付着している細菌が原因で歯周病が起ります。

歯周病とは？

歯垢中の細菌によって歯肉、歯根膜、セメント質および歯槽骨の歯周組織にまで炎症が生じる感染を歯周病(歯肉炎・歯周炎)と言います。

最初に唾液由来の糖タンパク性被膜が歯に形成されます。これはペリクルと呼ばれ、歯垢・歯石除去しても20分後には歯の表面に形成されます。このペリクルの上に細菌が付着する事で歯垢が形成され、さらに唾液中のカルシウムやリンを取り込み石灰化する事となります。犬では歯石になる期間はわずか2〜5日で、人の約5倍の速さです。歯垢・歯石が歯と歯肉の間(歯肉溝)に入り込むと「歯肉炎」が起り、歯肉溝で細菌がさらに増殖して歯肉以外の歯周組織にも炎症が及ぶと「歯周炎」になります。歯周組織の炎症がひどくなると、歯を支えることができず、抜け落ちたり、根尖周囲(歯の根の先)まで細菌が侵入すると骨が溶けてしまうこともあります。

歯周病になりやすい種

大型犬に比べ小型犬(トイ・プードル、ミニチュア・ダックスなどは顎に対して歯が大きいことから、歯周病が重症化しやすい傾向があります。

歯周病が疑われるしぐさや行動

歯周病などの口腔内のトラブルがあると、痛みや違和感によって行動やしぐさが変化します。例えば食事中に、①頭をよく振る、②食欲はあるが食べない、③軟らかいものが食べを、④突然奇声をあげる、また日常生活だと、⑤口臭がある、⑥前肢で口をこする、⑦よだれが多い、⑧口周りを触られるのを嫌がる、さらに悪化する、⑨前肢や口周りに血液やよだれの跡がある、⑩頬や顎が腫れているなど、このような症状があるときは歯周病の可能性があります。

歯周病を防ぐために

口腔内のトラブルを防ぐためには、私たちが毎日

危険なデンタルケア

デンタルケアのかわりに、硬いオモチャやおや

歯を磨くのと同じように、毎日の生活パターンにデンタルケアを組み入れるなどの衛生管理が必要となります。現在、歯ブラシ以外にも様々な動物用デンタルケア用品(歯磨きガゼ、デンタルジェル、デンタルガムなど)があります。今まで歯ブラシが使えなくて諦めてしまった方も、お近くの動物病院で一度ご相談してみたいかがでしょうか？すでに歯周病が進行している場合は歯垢と歯石の除去が必要となる場合があります。犬と猫の歯石除去には全身麻酔が必要のため、症状の程度と麻酔のリスクを事前に評価する必要があります。

つを与えていませんか？犬と猫の歯は人よりも脆く、簡単に割れたり折れたりします。ハサミで切れないオモチャやおやつ(蹄やアキレスなど)は与えないでください。無麻酔での歯科処置は、①動物が動いて適切な処置ができず怪我をする危険、②歯石や歯が気管に入り呼吸器疾患を起す危険、③動物に恐怖心を与えてしまい、以降デンタルケアをさせてくれない可能性があるなどの理由によりおすすめてできません。歯周病が疑われるしぐさや行動を認めた場合は、必ず動物病院で診察を受けることをおすすめします。(かまくら犬と猫の病院)



象者
炎球菌

本、助成
機関へ

ます)

の)

の)

の)

の)

の)

の)

の)

の)

の)

の)

の)

の)

の)

の)

の)

の)